序論の英文以外は全部デーヴァナーガリ文字で印刷されてをり、原典に卽して佛教を知らうとする者にとつては洵に好箇の資料を提供してくれる。本文三一四頁四六倍版、定價二〇ルピー（舟橋）

東洋思想と西洋哲學
——比較哲學論集——

C・A・ムーア編
三枝充悳 譯

この書物は、ハワイ大學のムーア (Charles A. Moore) 博士が編纂された《Essays in East-West Philosophy—An Attempt at World Philosophical Synthesis, University of Hawaii Press, Honolulu, Hawaii 1951》の飜譯（抄譯）であり、その原著は「第二回東西哲學者會議」に出席したアジア及び歐米の諸學者の論文から成つてゐる。內容は「會議」の構成通り、Ⅰ方法論、Ⅱ形而上學、Ⅲ倫理學及び社會哲學の三部に分れてゐる。

譯者は比較哲學を基準に置いて、原著の中から比較哲學に關する總論に當るもの七篇と各論に當るもの七篇とを選んで抄譯してゐる。

參考のため原著目次をあげ、その中、本書に揭載されてゐるもの丶上に〇印を附けておく。

〇チャールズ・A・ムーア「緖言—世界の哲學の綜合の一つの試み」

Ⅰ 方法論

〇鈴木大拙
「佛教哲學に於ける理性と直觀」

E・R・ヒュージ
「シナ哲學に於ける認識論の諸方法」

〇ディレンドラ・モハン・ダッタ「インド哲學に於ける認識論の諸方法」

スワーミー・ニキーラーナンダ「インド哲學に於ける方法論としての意識集注と瞑想」

〇エドウィン・A・バァト「東西哲學融合の方法に關する基礎的諸問題」

ウィリアム・レイ・デネス
「經驗的自然主義と世界理解」

〇フィルマア・S・C・ノースロップ「東洋と西洋の方法論と認識論」

Ⅱ 形而上學

〇陳榮捷
「シナ形而上學に於ける諸綜合」

〇グナパラ・ピヤセーナ・マララセーカラー
「長老佛教（小乘佛教）の教える實在の諸相」

〇花山信勝「大乘佛教」

〇P・T・ラジュー「インド哲學に於ける諸形而上學說」

スワーミー・ニキーラナンダ
「ウパニシャッドの不二一元論的見解に於ける梵の性格」

〇ジョン・ワイルド「西洋のレアリズムの基礎概念と東洋思想との關係」

〇ジョージ・P・コンガー「統合」

〇ウイルモン・ヘンリー・シェルダン
「東西哲學の主なる對比」

Ⅲ 倫理學及び社會哲學

梅貽寶「シナ哲學に於ける社會的・倫理的・精神的價値の基盤」

〇T・M・P・アハーデーヴァン「インド哲學に於ける社會的・倫理的・精神的價値の基盤」

C・P・ラーマースワーミー・アイヤール「インドの政治組織・社會組織に於ける哲學的基礎」

（九十五頁へ續く）

◇東洋史學 支那學 會

昭和三十一年度卒業生豫餞會
二月九日　午後六時　於スター食堂
出席者　野上・中田・水谷・宮崎・外山・藤原・間野各先生並びに研究室員、學生三十餘名。
野上・中田兩主任教授及び宮崎講師の餞けの言葉があり、盛會裡に終了。

◇獨文學會

二月二十七日
昭和三十一年度卒業生送別會
於鳥初（三條）
出席者　外村教授、岸助教授、藤尾囑託、卒業生和田裕宗、川井義男。
四月二十日
新入生歡迎會
出席者　外村教授、岸助教授、學生四名。

◇眞宗史學會

○二月二十一日　午後二時　於會議室
發表「歷史家の見たる惡人正機說」　三品彰英氏
出席者　藤島・五來・柏原・上場・北西・細川・堅田・高橋・織・名畑（崇）の各氏。
○六月三日　午後三時　於應接室
發表「河內光德寺の法寶物について」　上場謙澄氏
出席者　藤島・三品・柏原・北西・細川・堅田・織の各氏。尙、從來の眞宗史研究會の名稱を眞宗史學會と改稱することにした。

（九十二頁より）
チャールズ・モーリス「東西兩文化に於ける諸生活理想の强弱の比較」
フィルマー・S・C・ノースロップ「諸倫理學說の諸タイプ說と變容」
コニリァズ・クルーゼ「西洋の諸價値學說」
チャールズ・A・ムーア「東西兩洋に於ける形而上學と倫理學」
Ⅳ　結論と將來の見通し
○「ゼミナーレポート」
執筆者紹介
索引
（三一年九月・理想社刊・A5版・四〇六頁・七五〇圓）
（近藤）

大谷學報第三十七卷第一號

執筆者紹介

稻葉秀賢　大谷大學教授（眞宗學）
岩見護　大谷大學短期大學部教授（國文學）
中田勇次郎　大谷大學教授（支那學）
阿部行人　大谷大學助教授（倫理學）
堅田修　大谷大學助手（國史學）
近藤徹稱　大谷大學囑託（佛教學）